

式辞に先立って、一つお話ししたいことがあります。

6年前の今日3月11日は、本校の第47回卒業証書授与式でした。式が終わって、まだ別れを惜しむ生徒が残っていた午後2時46分、東北地方太平洋沖地震が発生しました。その大地震は、直後に大津波をもたらし、原子力発電所の事故を引き起こしました。3年生の皆さんが、小学校を卒業する半月ほど前の出来事です。

この東日本大震災によって、当時さいたま市に避難して来た生徒を、市立高校では本校で2人、大宮北高校で2人受け入れ、それぞれ無事に卒業しました。

震災では、昨日までに18,446人もの方が亡くなったり、行方が分からないままになっていたりしています。避難生活を余儀なくされている方は、今なお12万7千人に及びます。

家族や友人を失った方を含め、その方々の悲しみ、苦しみ、痛みを想像してください。そして、思いやりましょう。気持ちを寄り添わせましょう。

晴れの門出の日ではありますが、被災者の皆さんに心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

## 式辞

校内の樹々も芽吹き始めた今日、この春の佳き日に、さいたま市教育委員会委員長 大谷幸男様、さいたま市副市長 本間和義様、PTA会長 大塚成人様、後援会長 東條裕之様、同窓会長 小野安史様をはじめ、多くの御来賓の皆様、並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、さいたま市立大宮西高等学校第五十三回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、大きな喜びです。

三二四名の三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの卒業を心から嬉しく思います。また、お子様をこれまで慈しみ育てて来られた保護者の皆様、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿に、感激もひとしおかと拝察いたします。

さて、三年生の皆さんが二年生になる時に、私は本校に着任しました。以来二年間、これまで何度も皆さんに伝えたいと思ひ話してきたことは、ほぼ次の一点に集約されます。

それは「自分の未来をあきらめない、人任せにしない」ということです。今日は、三年生の皆さんへの私からの最後のメッセージであり、餞の言葉です。

「世界を、この世の中を、もっと良くするために、これから自分に何ができるか、何をしたらよいか」ということを、年越しの宿題として、二年続けて皆さんに考えてもらいました。そして代表して何人かの生徒に、皆さんの前で発表してもらいました。

「自分の考えや行動が世の中を動かしていくなんてあり得ないし、大袈裟じゃない？」と思う人もいるでしょう。しかし、そんなことはありません。また、「自分のことだけで精一杯で、世の中を良くするなんて考える暇なんか無いよ」と言う人もいるでしょう。しかし、それで良いのでしょうか。

なぜなら、皆さんが日々どういう心持ちで生活するかによって、皆さん自身の未来は違う道を辿るでしょうし、個人の集合体として成り立つ「世の中」のあり様も、異なるもの

になっていくからです。

そのことが世界的に実証される出来事が、昨年から今年にかけて二つありました。一つは、イギリスのEU離脱を決めた国民投票であり、もう一つはアメリカの大統領選挙です。

どちらも個人の投票行動の結果が、国の針路を大きく変え、大国であるがゆえに世界中に衝撃を与えました。この衝撃をもたらした要因を細分化していけば、言うまでもなくそれは、投票した一人一人の「自分の考えと行動」に行き着きます。

これらはそれぞれの当事者が、法に則って行われた投票によって決したことです。疑いもなく民主主義に基づく正当な結果です。それでもなお、国を二分するかのようなきが収まりません。

イギリスではEU離脱に反対する地域の人々が、イギリスからの独立を訴えています。アメリカではトランプ大統領による大統領令に対する大規模な抗議集会やデモが催されたり、州政府が大統領令を違憲として提訴し、裁判所が大統領令の一時差し止めを命じたりしています。アメリカと同盟関係にある国々の首脳が、トランプ大統領の施策を批判するという事態にまで至っています。

ここでは、これらの出来事についての個人的な意見や見解は控えますが、民主的な手続きで決定された方針が尊重されるのは、今さら議論の余地のないところです。

しかし、だからこそ、皆さん一人一人がはっきりと自分の意思を表明して、より良い方向性を支持したり、より適任だと期待できるリーダーを選んだりするべきであり、時には皆さん自身がその「期待されるリーダー」になる必要があるのです。

これまでに何度もお話ししてきたように、「たいしたことはできない」と「何もできない」は違います。「世界中の人々」とか「困っている全ての人」に対してはできなくても、自分の目の前にいる人にだったら、自分の身近にいる人にだったら、何かできるかも知れない。自分にできるその「何か」が、すぐに世界平和に結びつかなくても、人を優しい気持ちにさせるとか、思いやりの輪が広がるとか、ほんの少しずつでも、世の中をより良い方向に向かわせることができるのだと、私は信じています。

自分一人の考えなんて所詮ちっぽけなもので、世の中を変えることなんてできやしないと、あきらめてはいけません。自分が何もしなくたって、やる気のある誰かが上手くやってくれるだろうと、人任せにはしてはいけません。自分の、自分たちの、自分たちに続く者たちの未来をあきらめないこと、人任せにしないこと。そして、そのために自分には何ができるのか、何をすべきなのか、これからの生涯、常に自分自身で考えて、意識して行動してください。

皆さんは、本校に入学して間もなく、母校が数年後に中等教育学校へ改編されるという衝撃にさらされ、激しく動揺しながらも、本校ならではの文化祭や体育祭、修学旅行や球技大会など、いくつもの学校行事に全力で取り組み、それらを存分に楽しみながら、己を磨き、仲間意識を育み、自らの進路目標に向かって努力しました。

私が初めて皆さんに話をした時、こう言いました。西高生の皆さんに、もっと西高を好きになってもらい、もっと胸を張って、もっと自信に溢れて、西高を卒業して行ってほしい、と。

今、こうして皆さんを目の前にして、皆さんがそれぞれ内心でどれだけ胸を張って、ど

れだけ自信に溢れて、どれほどの愛情を西高に抱いて卒業していくのか、それは皆さん自身にしか分かりません。

しかし、これまでに皆さんからは、前向きに頑張っている姿をたくさん見せてもらいました。そして、私はそれを「西高の誇り」だと言いました。その「西高の誇り」をもっと広く、もっと大勢の人々に伝えたいと言いました。

卒業してもなお、あなた方一人一人の前向きな取組のすべてが「西高の誇り」なのです。そして、あなた方がこれからの人生の中で様々な困難に直面した時に、周りから「どうしてあなたはいつもそんなに前向きに考えたり行動できたりするのか？」と訊かれたら、胸を張ってこう答えましょう。「だって大宮西高校の卒業生ですから。」

私は、私たち全ての教職員は、これからもずっと、今までよりもずっと、あなた方の活動に、あなた方が作る「より良い未来」に、期待しています。

結びに、これまで本校の教育活動に深い御理解と温かい御支援を下さいました御来賓の皆様、並びに全ての保護者の皆様に心より篤く御礼を申し上げ、式辞といたします。

平成二十九年三月十一日

さいたま市立大宮西高等学校長 関田 晃